

旅システムとの協力会社である、東京のたびせん・つなぐさんの企画をご紹介します。

2021年 たびせん・つなぐオンライン企画

世界の平和博物館を訪ねるオンラインの旅 ① —— 韓国と被災10年の福島

安齋 育郎先生 (立命館大名誉教授・国際平和博物館ネットワーク名誉代表) コーディネイト



「コロナの時代」にオンラインで旅する世界の平和博物館。企画第1弾は日本による植民地支配に焦点を当てた日韓関係と、震災・原発事故から10年目の「3・11」を前後して物理学者として原発問題にも詳しい安齋先生が安全度外視で軍事から民生に転用された原発とその推進政策のはじまりから今日までをひも解きます。

■全9回で各回約1時間 ■2月6日から毎週土曜日に配信
■各回 1,500円、全回受講 9,000円

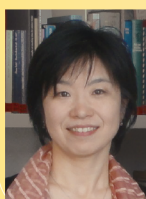
第1回 (2/6) 午後2時～ ライブ ナヌムの家

李玉善 (イ・オクソン) ハルモニ (おばあさん) との交流



15歳で拉致・連行され、日本軍将校による刀傷がからだ中に残る元日本軍「慰安婦」の李玉善ハルモニが、ナヌムの家からライブで語りかけ、交流します。歴史館・遺品館などの案内人は日本人の矢嶋幸・ナヌムの家国際室長。

第2回 (2/13) アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」wam



日本で初めて戦時性暴力、とりわけ日本軍「慰安婦」制度に焦点を当てた記憶と活動の拠点wam。渡辺美奈館長が同館を案内し、解説します。

第3回 (2/20) 植民地歴史博物館①

「私が歴史の証人①—韓国徴用工問題を考える」

金英丸 (キム・ヨンファン) 民族問題研究所対外協力室長



2018年10月30日、韓国大法院は、戦時中強制労働させられた韓国の被害者らに損害賠償を認める判決を下しました。国家によって踏みにじられた被害者の人権を取り戻す大事な一歩です。植民地主義を克服し、新しい日韓関係を築くため、闘い続けてきた日韓市民の連帯についてお話しします。



お問合せ
お申込み

(株) たびせん・つなぐ

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町 1-3-1-302

TEL : 03-5577-6300 FAX : 03-5577-6310

Eメール : info@tabisen-tsunagu.com

Web : http://tabisen-tsunagu.com

2021年 たびせん・つなぐオンライン企画

第4回 (2/27) 同② 「私が歴史の証人②—強制動員被害者遺族の証言」 李熙子 (イ・ヒジャ) 太平洋戦争被害者補償推進協議会代表



私は、日本が引き起こした戦争によって父を奪われた韓国人強制動員被害者遺族です。父の記録を探しながら、30年以上にわたって、日本政府と靖国神社を相手に闘ってきました。被害者・遺族の人生、痛み、悲しみ、韓日市民が共にしてきた活動の痕跡を共有し、新しい出会い、平和な未来につなげたいと思っています。

第5回 (3/6) 安齋先生による「福島いま・むかし」①

第6回 (3/13) 安齋先生による「福島いま・むかし」②

原発の安全性への危惧を指摘し、事故後は福島に通い住民の生活の安全のために尽力してきた安齋育郎先生が、1953年のアイゼンハワー米大統領による「平和のための原子力」提唱以来の安全性を無視した原発政策の推進や、広島型原発3万2千発に相当するマグニチュード9.0の東日本大震災など、福島、原発の歴史をひも解きます。

第7回 (3/20) 植民地歴史博物館③ 「特別対談—日韓平和博物館の役割」 (安齋先生、金英丸さん)

日本の立命館大学国際平和ミュージアムと韓国の植民地歴史博物館をはじめ、日韓それぞれの平和博物館の役割について、安齋先生と金英丸さんが語り合います。

第8回 (3/27) 同④ 「植民地歴史博物館と南山フィールドワーク」

(野木香里・植民地歴史博物館学芸室専任研究員)



日韓市民の共同で設立され植民地時代の実際の資料を多数展示する植民地歴史博物館、そして日本陸軍の基地と朝鮮神宮などが置かれた南山のフィールドワークを、日本人女性で同博物館学芸室専任研究員の野木香里さんが案内します。

第9回 (4/3) 立命館大学国際平和ミュージアム見学と安齋先生によるまとめ

過去の歴史に学び、未来の平和を願って開設された立命館大学国際平和ミュージアムをオンラインで見学し、安齋先生が旅のまとめをおこないます。

2021年 たびせん・つなぐオンライン企画 予約票

フリガナ氏名		性別	男・女	電話番号							
現住所	〒										
eメールアドレス											
希望企画に○	安齋企画	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	全